

## 株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞



アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)



第53期 (平成18年7月1日～平成18年12月31日) 中間報告書

住まいの飾り職人  
ATOM  
アトムリビンテック株式会社



経営理念

「住まいの飾り職人」が作り出す  
独創的な商品で、  
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」



創業者は江戸指物(鏡台、茶箆筒、長火鉢等)の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する銚職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

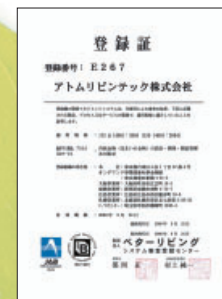
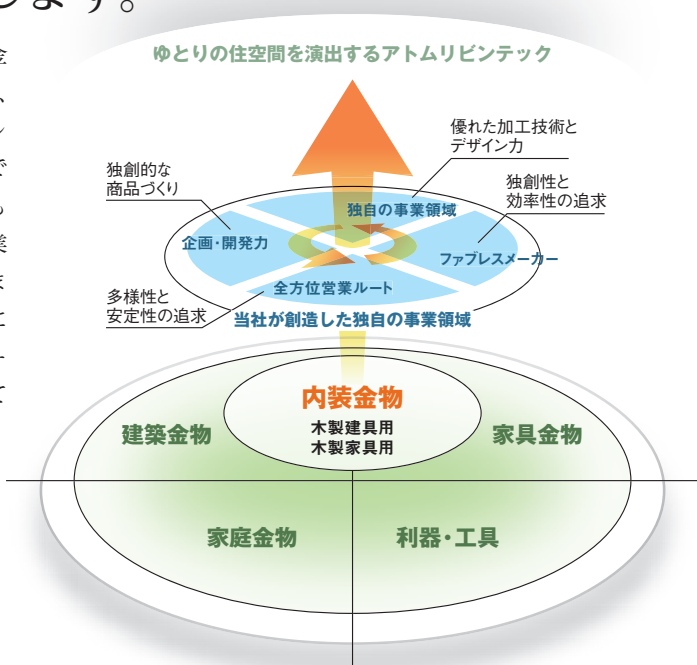
また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビンテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、正しく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

ハイライト

お客様に密着した  
「総合インテリア企業」を目指します。

当社は、実用本位の「建築金物」とデザイン性の高い「家具金物」を融合させた「内装金物」という新たな事業領域を創造し、金物業界で独自の地位を確立してまいりました。また、ファブレスメーカーとして、つねに先駆的な商品の企画開発に取り組んでまいりました。こうして生み出された自社製品は、お客様からも高く評価され、家具業界はもちろん、建具業界、住宅設備機器業界、住宅業界など、業界の垣根を越えてご利用いただいております。今後も当社は、快適な居住空間を提供するため、これまでに培ってきたノウハウとネットワークを活用し、新しい時代のニーズに応える商品づくりを通じて、総合インテリア企業を目指してまいります。



環境マネジメントシステム  
ISO14001の認証を取得

当社は、2006年8月25日付で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を、全事業所を対象として取得いたしました。企業の社会的責任を果たすためにも、当社は環境保全に配慮した事業の推進に向け、全社をあげて取り組みを強化してまいります。

総合ショールーム &  
情報発信キーステーション  
「アトムCSタワー」竣工

当社は、2007年1月22日、新しい住空間デザインの情報発信基地として「アトムCSタワー」をオープンいたしました。くわしくは、5～6ページの「トピックス」をご覧ください。



中国現地法人として  
「上海阿童木建材商貿有限公司」を設立

当社は、2006年12月7日、中国建材・家具市場への販売および中国からの調達・販売業務を推進するため、当社全額出資による子会社「上海阿童木建材商貿有限公司」を設立いたしました。今後、同社を核に、中国国内販売・貿易業務をさらに推進、拡大してまいります。



## 株主の皆様へ



代表取締役社長 高橋良一

# 既存事業と新規事業の有機的結合による 21世紀型ビジネスモデルの構築を目指し、 「新分野・異分野の開拓」を 全社一丸となって展開いたします。



### 当中間期の取り組みと 業績についてお聞かせください。

まず、経営環境からお話ししますと、当事業と関連の深い住宅市場は、新設住宅着工戸数において持家に持ち直しの兆しが見られる中、マンションを中心とした分譲住宅ならびに貸家が全体を牽引する形で堅調に推移いたしました。一方、住宅関連市場においては、原材料価格の高騰とともに企業間競争はさらに激化し、依然として厳しい経営環境が続きました。

こうした厳しい経営環境においても、市場優位性の維持と収益力を強化すべく、当社では、当期からスタートした「新市場の確立を機に、総合インテリア企業を目指す」第六次中期経営計画の下、商品戦略、市場戦略、情報システム戦略を推進してまいりました。商品戦略については、引き続き主力商品の海外調達拡充を推進するとともに、国内生産のさらなる合理化を図り、定期的かつ継続的な原価低減に向けた購買システムの基盤づくり強化に取り組みました。また、GKインダストリアルデザインとのコラボレーションで企画開発した「CASARL(カサル)」シリーズや社会的要請でもあるユニバーサルデザイン(安全で誰もが使いやすい設計)を取り入れた「快適提案品シリーズ」のラインナップ強化を行いました。市場戦略では、本格的なオンデマンド事業の布石となるデマンドメーカ

ー(家具の設計・注文をインターネット上で行えるオンデマンド型システム)のBtoB市場でのシェア拡大と併せて、エンドユーザーを視野に入れたBtoC市場への普及活動に注力しつつ、次のステップに向けた基盤づくりを着実に推進いたしました。また、情報システム戦略においては、顧客利便性の向上と受発注業務の効率化を目指す新たな「WEB受発注システム」が稼働を開始したほか、インターネットを介した「オンラインショップ」の充実を図りました。

このような取り組みの結果、当中間期の売上高は45億6百万円(前年同期比105.4%)と厳しい環境の中での増収となり、経常利益は1億74百万円(前年同期比41.4%)、中間純利益については1億2百万円となりました。



### 厳しい経営環境の中で、 増収増益となった要因は どこにあるとお考えですか。

当初の予想をはるかに上回る原材料価格の高騰という厳しい状況の中で増収を果たすことができた要因は、市場の好転ということもありますが、市場優位性を発揮して営業活動を強力に推進したこと、次世代に向けて積極的かつ系統的に行ってきた、きめ細かな商品開発がお客様に評価され、新規取引を取り込むことができた結果であると考えています。一方、利益面ですが、原材料価

格の高騰で利益率が低下する中、販売費及び一般管理費の圧縮や貸倒損失を僅少に抑えるなどの自助努力によって、増益を確保することができました。

こうした点からいいますと、第六次中期経営計画が目標とする、厳しい経営環境においても安定成長を可能にする基盤づくりですが、まずは順調なスタートを切ることができたのではないのでしょうか。とはいえ、先行きについては楽観視できない状況が続くと思われ、さらに気を引き締め、下期においても一層の原価低減、業務の合理化に向けた取り組みを強めていきます。



### 当期の重要な取り組みについて、 具体的にお話をお聞かせください。

2006年8月25日、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得いたしました。当社はすでに2003年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しており、企業の社会的責任を果たす観点からも、この二つの国際規格を活用し、品質の強化、環境に配慮した商品開発のあり方を追求していきたくと考えています。

また、2006年12月7日には、中国・上海市に当社全額出資の子会社となる「上海阿童木建材商貿有限公司」を設立いたしました。これまで当社では、中国市場への販売窓口として現地企業との提携により上海と大連にショールームを開設、ご活用いただいております。この間の取り組みによって、日系企業向けの大口受注が拡大してきたこと、現地生産・現地販売の開発案件が増大してきたことから、中国市場でのアトムブランドの販売、さらには現地生産された商品の日本での販売も視野に入れ、現地法人の設立に踏み切った次第です。

一方かねてから東京・新橋に建設を進めてきましたアトムCSタワーが竣工し、2007年1月20日に関係者の皆様方をお招きして内覧会を行いました。当社では、このCSタワーを、当社の過去・現在・未来を総合的に展示するスペースとして位置付け、オンデマンド事業の拠点として、当社の事業や製品をもっと知っていただくための

情報発信基地として活用していきたくと考えています。

これらの取り組みは、これからの当社のあり方を指し示す重要なファクターであると考えています。商品戦略でいえば、ユニバーサルデザイン設計思想を反映した商品の拡大やLOHAS思想を取り入れた商品開発など、次世代に向けた高品質な商品を開発するための基盤と海外生産に依拠して原価低減を継続的に追求する基盤が整備されたことを意味します。また、市場戦略においては、オンデマンド事業の拠点を活用した将来有望な市場の開拓や中国現地法人を活用した海外市場への進出によって、新分野・異分野へ進出する動きが加速されることを期待しています。情報システム戦略では、イントラネットを活用した業務の効率化が一層推進されるとともに、インターネットを介したお客様とのコミュニケーションが活性化され、「金物業界における21世紀型ビジネスモデル」の実現に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。



### 株主の皆様へのメッセージを お願いいたします。

当社は、当期より、第六次中期経営計画の下、既存事業と新規事業との有機的結合による「総合インテリア企業」を目指す取り組みを開始いたしました。その進捗については「アトムCSタワー」のオープンをはじめ、中国現地法人の設立など、確かな手応えを感じております。しかし、目標を完遂するには、将来にわたり、収益の純増が早期に見込める投資案件について、前向きかつ機動的に対応する必要があります。当社は、こうした新規案件に対する投資を推進するとともに、株主の皆様への利益還元を経営の重要な課題として認識し、これまでも積極的な配当の継続に努めてまいりました。こうした方針に基づき、当期の中間配当は1株につき10円とさせていただきますことといたしました。

今後とも当社は、さらなる株主価値の増大を目指し、「新分野・異分野の開拓」を全社一丸となって推進してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き、当社の経営方針に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## トピックス

# 情報発信のキーステーション 「アトムCSタワー」がオープンしました。

当社100年の歴史のシンボルタワーであると同時に、これからの100年を築くためのクリエイティブなスペースとして、すべてのステークホルダーの皆様とともに「アトムCSタワー」を育ててまいります。



かねてより建設を進めておりました「アトムCSタワー」が竣工し、2007年1月22日より、営業を開始いたしました。これに先立つ1月20日、100名を超える関係各位のご参加をいただき、内覧会を行いました。「アトムCSタワー」は、住まいの金物・インテリアショールームのほか、多目的スペースを設けることで、情報発信のキーステーションとしての役割を担うとともに、当社とステークホルダーとの交流の場としての機能を併せ持っています。

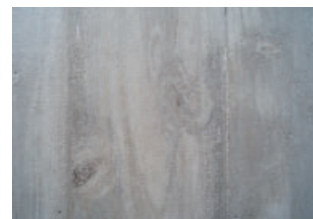
CSは、Customer Satisfactionの略語であり、「顧客満足」の意味で使われていますが、当社では、もう一步踏み込み、CSにCustomer Solution（顧客の問題解決）という意味合いを持たせ、企業活動の原点としてまいりました。またCSには、Circle & Square（マルとシカク）といった意味も込められています。マルは「IT技術がもたらす革新的な新規事業のカタチ」を、シカクは創業以来100年間、培ってきた「伝統的な職人の技術と精神」、すなわち既存事業のカタチをイメージしています。

「アトムCSタワー」は、こうした「CS」のシンボルとして、「リアル」の世界を軸に、「バーチャル」の価値を積極的に取り入れ、どこにもない新しい可能性を秘めた共創空間＝クリエイティブなスペースとして、ご活用いただけることを心から願っています。



## CSタワーのコンセプトはLOHAS

近隣の赤レンガ通りをテーマに、人のぬくもりを感じさせる赤煉瓦を壁面に配し、地域と環境へ配慮する企業姿勢を表現しています。



### 杉の柱目を活かした壁面

杉の柱目を活かした打ちっ放しコンクリートの壁面は、自然との調和、環境保全への寄与を具現化するモニュメントでもあります。



### 屋上緑化を積極的に推進

ペントハウスの周囲に植栽を行い、ゆとりと安らぎを感じるスカイガーデンを開設し、訪れる人びとにひとときの憩いを提供します。

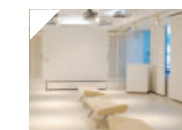


### LOHASを具現化するスペース構成

ロビーにはじまり、各階フロアと、「アトムCSタワー」全体が、LOHASをテーマにした緑あふれるデザインで構成されています。



## Floor Guide フロア紹介



Gallery / Conference Room  
オープンギャラリー、会議室

8F



Partner's Office  
ドゥーマンズ(株)/(有)ディーアーチ  
ミーティングルーム

6F



Metal Fittings Gallery  
垂吐夢金物館

4F



Metal Fittings Gallery  
垂吐夢金物館 / 総合受付

2F



Multiple Studio  
マルチプルスタジオ

BF

Pent House  
スカイガーデン

PH



Interior Market Place  
オンデマンド事業部オフィス  
デマンドメーカーショールーム

7F



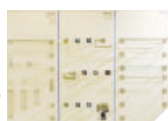
Scene Make Studio  
住空間イメージフロア

5F



Metal Fittings Gallery  
垂吐夢金物館

3F



Lobby / Show Case /  
Guidance Floor  
ロビー、ガイドンスフロア

1F



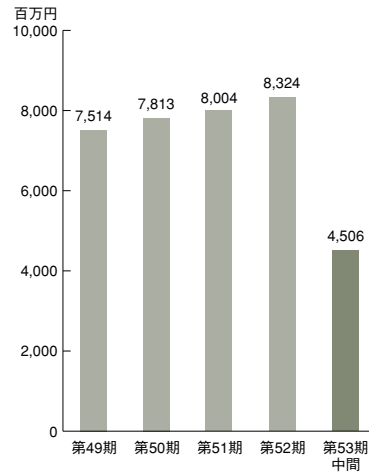
株主の皆様のお越しをお待ちいたしております

当社では、一人でも多くの株主の皆様に、当社事業を具象化した「アトムCSタワー」を訪れ、そのすべてを体感していただきたいと願っています。近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。受付のスタッフにお声をかけていただければ、館内をご案内させていただきます。

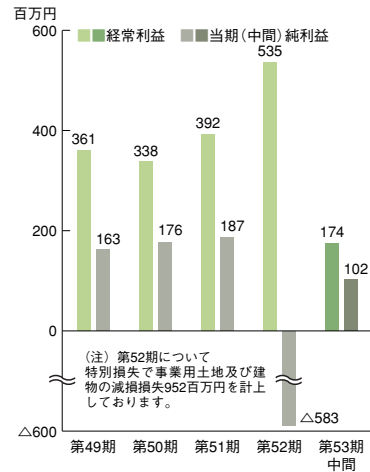


## 業績の推移

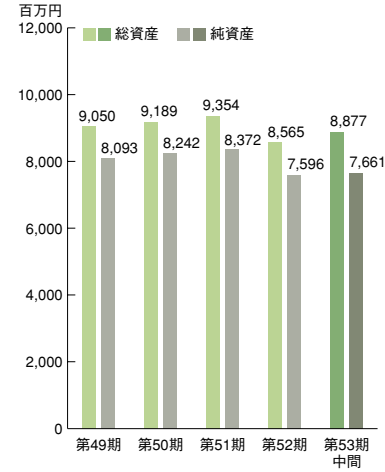
### ●売上高



### ●経常利益／当期(中間)純利益



### ●総資産／純資産



### ●主要経営指標

	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期中間
売上高営業利益率 (%)	3.6	3.2	3.5	3.4	3.1
総資本営業利益率〔ROA〕 (%)	3.0	2.7	3.0	3.1	1.6
自己資本利益率〔ROE〕 (%)	2.0	2.2	2.3	△7.3	1.3
流動比率 (%)	654.1	769.3	804.2	805.7	558.2
固定比率 (%)	60.7	54.4	51.6	43.2	50.7
自己資本比率 (%)	89.4	89.7	89.5	88.7	86.3
1株当たり純資産額 (円)	1,969.2	2,005.6	2,038.1	1,850.6	1,866.4
1株当たり当期(中間)純利益 (円)	37.4	40.5	44.2	△142.1	25.0
1株当たり(中間)配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	20.00	10.00
配当性向 (%)	53.4	49.3	45.3	—	40.1

#### ※1. 1株当たり(中間)配当額

第49期については、普通配当17円50銭に加えて、創業100周年記念配当2円50銭としております。  
 第50期については、普通配当17円50銭に加えて、ATOMブランド誕生50周年記念配当2円50銭としております。  
 第51期については、普通配当17円50銭に加えて、株式会社法人改組50周年記念配当2円50銭としております。

#### ※2. 第52期の当期純損失について

特別損失で事業用土地及び建物の減損損失952百万円を計上しております。

#### ※3. 第52期の配当性向について

当期純損失であるため算定しておりません。

## 財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前中間期 (自平成17年7月1日 至平成17年12月31日)	当中間期 (自平成18年7月1日 至平成18年12月31日)	前期 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)
売上高		4,274,907	4,506,040	8,324,644
売上原価		3,151,375	3,368,153	6,153,234
売上総利益		1,123,531	1,137,887	2,171,410
販売費及び一般管理費		934,569	996,738	1,892,321
営業利益		188,962	141,149	279,088
営業外収益		233,022	35,472	256,662
受取利息・配当金		9,424	6,756	18,697
有価証券売却益		205,556	11,274	205,556
有価証券償還益		2,400	500	2,450
仕入割引		13,216	14,635	25,810
その他の営業外収益		2,424	2,307	4,146
営業外費用		—	1,978	—
有価証券償還損		—	1,978	—
経常利益		421,984	174,644	535,751
特別利益		3,000	1,904	1,395
貸倒引当金戻入益		3,000	1,904	1,395
特別損失		953,588	2,008	953,877
固定資産除却損		610	2,008	899
減損損失		952,978	—	952,978
税引前中間(当期)純利益又は純損失(△)		△ 528,603	174,541	△ 416,730
法人税、住民税及び事業税		168,964	71,440	214,653
法人税等調整額		△ 54,795	614	△ 48,006
中間(当期)純利益又は純損失(△)		△ 642,773	102,486	△ 583,377
前期繰越利益		1,498,185	—	—
中間(当期)未処分利益		855,412	—	—

## 損益計算書

## 財務諸表

### 貸借対照表

期別	前中間期 (平成17年 12月31日現在)	当中間期 (平成18年 12月31日現在)	前期 (平成18年 6月30日現在)
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	5,771,666	4,991,448	5,281,620
現金及び預金	1,719,384	1,602,616	1,773,975
受取手形	1,201,235	1,222,275	1,177,256
売掛金	1,238,909	1,343,037	1,089,365
有価証券	751,428	99,700	478,608
商品	732,442	655,156	678,617
貯蔵品	—	22,147	—
前渡金	24,867	102	37,620
前払費用	58,525	25,601	38,000
繰延税金資産	24,007	9,085	4,418
その他	30,398	18,150	12,839
貸倒引当金	△ 9,532	△ 6,423	△ 9,081
固定資産	3,122,500	3,885,906	3,283,888
有形固定資産	2,177,629	2,698,661	2,344,472
建築物	728,325	699,138	705,482
構築物	1,891	1,705	1,793
車両及び運搬具	665	425	511
工具器具及び備品	251,528	224,685	241,966
土地	1,027,767	1,027,767	1,027,767
建設仮勘定	167,450	744,938	366,950
無形固定資産	102,421	92,812	108,310
ソフトウェア	86,944	73,961	75,992
電話加入権	4,521	4,521	4,521
ソフトウェア仮勘定	10,955	14,329	27,797
投資その他の資産	842,450	1,094,433	831,105
投資有価証券	597,428	847,298	577,191
出資金	1,200	1,200	1,200
長期貸付金	32,652	27,668	26,677
破産更生債権等	14,751	4,893	6,302
長期前払費用	2,241	1,134	1,325
繰延税金資産	147,817	155,912	163,580
敷金保証金	61,237	61,287	61,237
貸倒引当金	△ 14,878	△ 4,962	△ 6,409
資産合計	8,894,166	8,877,355	8,565,508

#### ▶▶ Point 現金及び預金

現金及び預金は、前期末に比べ171百万円の減少となりました。  
主な理由はキャッシュ・フローのコメントをご参照ください。

#### ▶▶ Point 建設仮勘定

アトムCSタワー（港区新橋・旧垂吐夢金物館）の建設費用です。

#### ▶▶ Point ソフトウェア仮勘定

WEB受発注システム（「ERP（統合業務パッケージ）システム」のバージョンアップの一環）のソフトウェア開発費用です。

(単位：千円未満切捨て)

期別	前中間期 (平成17年 12月31日現在)	当中間期 (平成18年 12月31日現在)	前期 (平成18年 6月30日現在)
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	995,984	894,278	655,515
買掛金	542,372	575,989	410,914
未払金	183,246	178,627	71,747
未払費用	31,219	31,658	31,877
未払法人税等	176,514	78,342	51,840
未払消費税等	10,083	11,616	15,363
前受金	35,953	262	35,953
預り金	16,595	17,780	27,818
役員賞与引当金	—	—	10,000
固定負債	315,524	321,476	313,306
退職給付引当金	176,803	173,505	169,960
役員退職慰労引当金	137,720	146,970	142,345
その他	1,000	1,000	1,000
負債合計	1,311,509	1,215,754	968,821
<b>(資本の部)</b>			
資本金	300,745	—	—
資本剰余金	273,245	—	—
資本準備金	273,245	—	—
利益剰余金	6,980,517	—	—
利益準備金	43,189	—	—
任意積立金	6,081,916	—	—
土地圧縮積立金	81,916	—	—
別途積立金	6,000,000	—	—
中間未処分利益	855,412	—	—
株式等評価差額金	28,149	—	—
資本合計	7,582,657	—	—
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	—	7,634,289	7,572,852
資本金	—	300,745	300,745
資本剰余金	—	273,245	273,245
資本準備金	—	273,245	273,245
利益剰余金	—	7,060,299	6,998,862
利益準備金	—	43,189	43,189
その他利益剰余金	—	7,017,109	6,955,673
土地圧縮積立金	—	81,916	81,916
別途積立金	—	6,000,000	6,000,000
繰越利益剰余金	—	935,193	873,757
評価・換算差額等	—	27,311	23,833
その他有価証券評価差額金	—	27,311	23,833
純資産合計	—	7,661,600	7,596,686
負債・純資産合計	8,894,166	8,877,355	8,565,508

### 株主資本等 変動計算書

(自 平成18年7月1日 至 平成18年12月31日)

(単位：千円未満切捨て)

	株主資本								株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金 その他利益剰余金				株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余 金合計	利益準備金	土地圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
平成18年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	873,757	6,998,862	7,572,852
中間会計期間中の変動額									
剰余金の配当							△ 41,050	△ 41,050	△ 41,050
中間純利益							102,486	102,486	102,486
株主資本以外の項目の中間会計 期間中の変動額(純額)									
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	61,436	61,436	61,436
平成18年12月31日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	935,193	7,060,299	7,634,289

### □ 「株主資本等変動計算書」について

平成18年5月1日施行の会社法に伴い、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、「貸借対照表」で新設された「純資産の部」の中で、主に株主の皆様へ帰属する株主資本等について、その1会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

	評価・換算差額等		
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産合計
平成18年6月30日 残高	23,833	23,833	7,596,686
中間会計期間中の変動額			
剰余金の配当			△ 41,050
中間純利益			102,486
株主資本以外の項目の中間会計 期間中の変動額(純額)	3,477	3,477	3,477
中間会計期間中の変動額合計	3,477	3,477	64,913
平成18年12月31日 残高	27,311	27,311	7,661,600

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前中間期 (自平成17年7月1日 至平成17年12月31日)	当中間期 (自平成18年7月1日 至平成18年12月31日)	前期 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 27,243	116,718	126,139
投資活動によるキャッシュ・フロー		236,425	△ 247,379	178,512
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 46,782	△ 40,698	△ 87,662
現金及び現金同等物の増加(△減少)額		162,398	△ 171,358	216,989
現金及び現金同等物の期首残高		1,556,985	1,773,975	1,556,985
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		1,719,384	1,602,616	1,773,975

### Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に、税引前中間純利益174百万円、資金流出ではない減価償却費95百万円、増収による売上債権の増加297百万円、仕入債務の増加166百万円などを反映したものです。

### Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

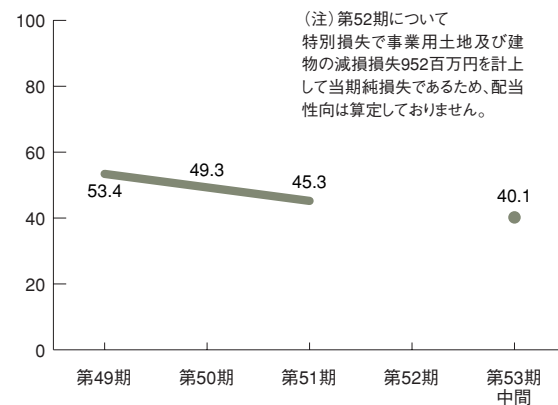
主に、有形固定資産の取得による支出362百万円によるものです。

### Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

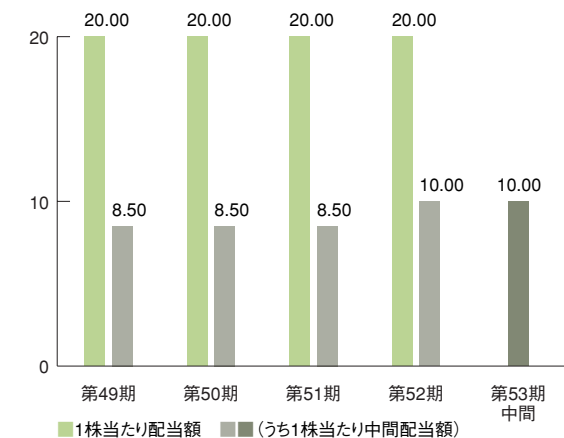
配当金の支払のため、40百万円の資金を使用しました。

## 配当状況

### ● 配当性向 (%)



### ● 1株当たり配当金 (円)



## 〔中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項〕(当中間期)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

**その他有価証券**

時価のあるもの	…中間決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
時価のないもの	…移動平均法による原価法

### 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

**商品** ……移動平均法による原価法  
**貯蔵品** ……最終仕入原価法による原価法

### 3 固定資産の減価償却方法

**有形固定資産** ……定率法を採用しております。  
 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。  
 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
 建物及び構築物 6～47年  
 工具器具及び備品 2～20年  
**無形固定資産** ……定額法を採用しております。  
 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。  
**長期前払費用** ……定額法を採用しております。

### 4 引当金の計上基準

**貸倒引当金** ……売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。  
**役員賞与引当金** ……役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当中間会計期間に見合う分を計上しております。  
**退職給付引当金** ……従業員の退職給付に備えるため、退職金規程に基づく自己都合による中間期末退職金要支給額から特定退職金共済及び適格退職年金の年金資産を控除した額を計上しております。  
**役員退職慰労引当金** ……役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

### 5 リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### 6 消費税等の会計処理

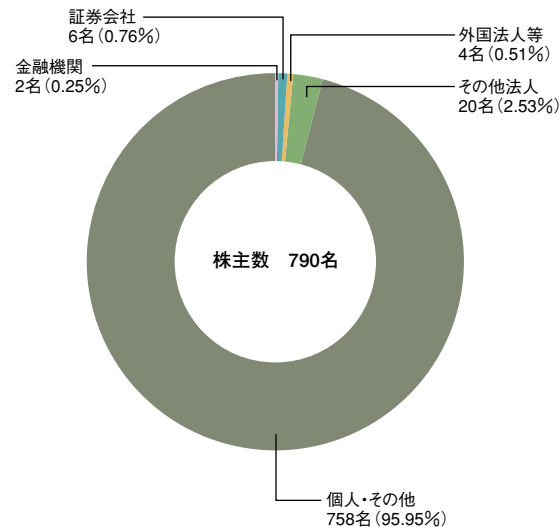
消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

## 株式の状況 (平成18年12月31日現在)

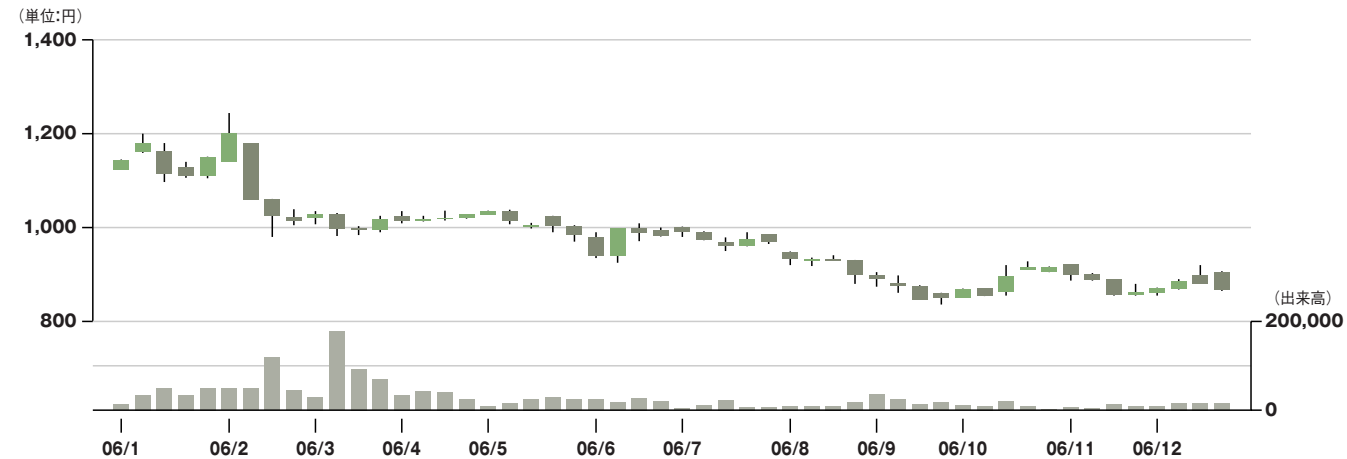
発行可能株式総数 15,420,000株  
 発行済株式の総数 4,105,000株  
 株主数 790名  
 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	985,440	24.00
高橋良一	505,000	12.30
アトムリビンテック従業員持株会	271,660	6.61
高橋快一郎	174,000	4.23
アトムリビンテック取引先持株会	156,700	3.81
高橋寿子	148,000	3.60
高橋良男	120,000	2.92
バンクオブニューヨークジーシーエムクライ アントアカウンティイーアイエスジー	108,000	2.63
大塚弥寿男	92,000	2.24
磯川産業株式会社	81,500	1.98

## 株主の所有者別分布状況 (平成18年12月31日現在)



## 株価および出来高の推移



## 会社概要 (平成18年12月31日現在)

商号 アトムリビンテック株式会社  
 創業 明治36年  
 設立 昭和29年10月  
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、  
住まいの金物全般の企画・開発・販売  
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行  
株式会社三菱東京UFJ銀行  
従業員数 115名(嘱託0名・パート19名含まず)

## 役員 (平成18年12月31日現在)

代表取締役社長 高橋 良一  
 取締役 吉倉 良治  
 取締役 後藤 厚  
 取締役 神原 誠  
 取締役 根本 博  
 常勤監査役 橋本 政義  
 監査役 岸田 充雄

ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報ははじめ商品情報・オンラインショップなど、  
 様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。

## 事業所一覧 (平成18年12月31日現在)

**本社**  
 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600

**ATOM-CDセンター(商品本部)**  
 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町1336-4 TEL 048-922-5551

**札幌営業所**  
 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号  
 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113

**前橋営業所**  
 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651

**広島営業所**  
 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235

**アトムCSタワー**  
 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号  
 オンデマンド事業部 TEL 03-3437-3673  
 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440  
 ※平成19年1月22日よりオープン

**ATOM住まいの金物ギャラリー大阪事業所**  
 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281

## 関連会社 (平成18年12月31日現在)

上海阿童木建材商貿有限公司(中華人民共和国)

